

Main cultivation schedule table with columns for months (5-10), stages (旬), and various management tasks like water management, main work, and pest control.

※いもち病対策 コラトップ粒剤5 3~4kg/10a当り 出穂5日前まで

土づくり

- 1. 地力増進のため、麦わら・稲わらは全量すき込みましょう。または、大地めぐみちゃん(堆肥) 1t/10a 施用し有機物をおぎなひましょう。
2. 土壌改良資材(ミネラル G または、珪鉄を100~200kg)を施用しましょう。

塩水選と種子消毒

○塩水選

Table for salt water selection showing grain types (うるち), ratios, and amounts of salt and potassium permanganate.

(食塩か硫酸かどちらか一方を溶く)



○種子消毒(ばか苗病・いもち病・心枯線虫・もみ枯細菌病)
水10ℓ(粉5.5kg分)当り
(テクリードCフロアブル 50ml)
(スミチオン乳剤 10ml)
の混合液に、24時間浸漬する。
※薬剤の量を厳守する。
※浸漬中に2回の攪拌を行なう。
○種子消毒後は水洗いせず、その後停滞水につけ1日1回水を換え、芽出しを行なう。
※種子消毒の残液が河川や地下水などに流入しないよう注意する。

一般水田雑草除草剤使用基準

◎初・中期一発除草剤

Table for initial and middle-term one-time weed control agents, listing agent names, usage per 10a, application periods, and safety periods.

- ①除草効果を高めるため、散布後7日間以上水を保つ。
②移植時処理については、田植同時散布機で施用する。
③次のような事項は薬害が生じる可能性があるので注意しましょう。
・田面が不均一なほ場、軟弱苗や極端な浅植え等での使用
・強風下での使用
・フロアブル剤、ジャンボ剤の漏水田での使用(特にジャンボ剤については水深5cm程度を保つ。)

◎中・後期除草剤

Table for middle and late-term weed control agents, listing applicable weeds, agent names, usage, application periods, and precautions.

- ※①薬剤ごとに適用年齢、水管理、使用時期が異なるのでラベル等をよく読んで使用して下さい。
②効果を高めるため少なくとも3日程度は散布時の状態を保つ。降雨があっても7日間は落水しない。

施肥基準

◎元気つくし

(kg/10a)

Table for fertilization standards showing fertilizer types (基肥, 穂肥), application amounts, and specific fertilizer names like 'みい極'.

※穂肥の2回目は1回目の7日後。

品種特性表

(出穂期・成熟期はJAみい調査データ)

Table for variety characteristics including variety name, maturity dates, yield, and disease resistance.

栽培上の留意点

※耐倒伏性は“やや弱”であるので、過度の施肥は行わない。いもち病には弱いので適期防除に努める。

農薬使用上の注意

- ① 粉剤は散布後、殺菌剤で6時間、殺虫剤で3時間以内に降雨にあった場合は効果が劣るので天候に注意して散布しましょう。
② 農薬によるミツバチへの危害防止のため、稲の開花期に農薬の使用は避けましょう。
③ 安全・安心な農産物を確保するため(ポジティブリスト制度)以下のことに注意しましょう。
・この暦は、平成29年1月時点の登録情報に基づいて作成しています。
・農薬の登録内容は随時変更されますので、使用上の注意をよく読んで使用基準を遵守しましょう。
・周辺作物へ農薬の飛散がないように注意しましょう。
※収穫前に栽培日誌の提出をお願いいたしますので、農薬による防除を行った場合必ず記入して下さい。